

地区	地区No.	出された意見(個人が特定される意見は除いてあります。) ※うす黄色のマスは今回掲載分の意見	意見掲載日
三ヶ日	20	隣接地で耕作放棄地が増えているので、借りたり交換して耕作地をまとめつつ、改植を進めてSS等が使える耕作地へ転換し、耕作規模拡大と機械化による労力軽減、作業の効率化をしたい。	R3.1.29
三ヶ日	20	みかんの耕作面積を増やしたい。昨年常時雇用をはじめたのと改植を進めているため収量が減っているのでまとまった土地を探している。	R3.1.29
三ヶ日	20	耕作地の枚数が多い。作業効率が悪い。	R3.1.29
三ヶ日	20	収穫雇用の不足(遊び半分の人が集まってしまう。)	R3.1.29
三ヶ日	20	親世代と考え方が違いすぎる。	R3.1.29
三ヶ日	20	技術を持っていても生かせない。	R3.1.29
三ヶ日	20	みかんの適地ではない?	R3.1.29
三ヶ日	20	親世代は温暖化に合せた管理ができない。	R3.1.29
三ヶ日	20	みかんを知らなすぎる。教えても聞かない。わからない。	R3.1.29
三ヶ日	20	JA以外の販売ルートが必要	R3.1.29
三ヶ日	20	地図のNo.4356周辺の耕作放棄地を借りられるなら借りたい。	R3.1.25
三ヶ日	20	規模拡大したいが平山地区での借地の情報が農地銀行に入っていない。	R3.1.25
三ヶ日	20	戦略畑総事業を復活させて下さい。	R3.1.25
三ヶ日	20	単純に耕作地、耕作放棄地を分けるのではなく放棄地になった理由・背景も調査した方がよい。不適地を区分して、決められた基準以下の農地は無理して再生する必要はないと思う。	R3.1.25
三ヶ日	20	不適地は国なり自治体に寄付できるような仕組みも必要になってくると考えます。	R3.1.25
三ヶ日	20	隣地が以前より耕作放棄地で困っている。	R3.1.8
三ヶ日	20	隣地の木が大きくなりすぎて管理できないようで日当たりが悪化している。	R3.1.8
三ヶ日	20	農地の貸借等の情報を知りたいがどうすればよいか	R3.1.8
三ヶ日	20	コンバインなどの農機を持っているため水田の作業を頼まれるが露地果樹もやっている者にとっては水稲は儲けにならず果樹の作業にも影響するためやめたいがやめられない状況	R3.1.8
三ヶ日	20	水利組合の会員が減るに伴い、残った者で会費を値上げしないと運営できないが、値上げにより水田から畑に転換する人が増えて困っている。	R3.1.8
三ヶ日	20	農地集約したいと思っても、農地を貸す場合は同じ地区の人でないと貸してくれないことがある。	R3.1.8
三ヶ日	20	高齢で耕作できなくなっても、貸し先にこだわりがあり、貸さない人がいる。	R3.1.8
三ヶ日	20	基盤整備しても水路がしっかりできていない所ばかりでなく大雨で土砂が道路に流れ出た迷惑をかけている。	R3.1.8
三ヶ日	20	パイロット事業でやったコルゲート管水路はダメになっていて畑土が削られてしまう。水路の再整備を望む。	R3.1.8
三ヶ日	20	後継者がいないので5年先は農業が難しくなる。いずれは売却、貸し出しを考えている。	R3.1.8
三ヶ日	20	貸借書類などは借り手側主導で作成しているが、筆数地主数が多いため負担が大きく契約が進まずヤミ小作が多い。貸し手側で作成した方が効率的にできると思う。貸し手側だと相手は1件だが、担い手側だと100件以上の書類になる。	R3.1.8
三ヶ日	20	本気で農業従事者を増やしましょう。農家でない子供たちを本気で農業者に育てましょう。若くてやる気のある、変わった血を農業の現場に入れていきましょう。	R3.1.8
三ヶ日	20	畑の集約をして機械を生かせる効率的な農業をしたい。	R3.1.8
三ヶ日	20	人材バンクを作り、一年通じて労働力を確保したい。	R3.1.8
三ヶ日	20	所有者と耕作者間の借地では流動化は困難。間に農協をはさむ貸し借りが必要。 ×所有者→耕作者 ○所有者→JA→耕作者	R3.1.8
三ヶ日	20	今後15年で農家が自分に地区で20件の農家が無くなると思う	R2.12.21
三ヶ日	20	土地をどう守っていくか、今考えなくてはダメなので、人・農地プランは今一番必要な事だと感じる	R2.12.21
三ヶ日	20	機械化できる基盤整備がやはり必要	R2.12.21
三ヶ日	20	自分も拡大希望が多いと感じた	R2.12.21
三ヶ日	20	園地をまとめる、作業をまずやるべき	R2.12.21
三ヶ日	20	国等の事業で基盤整備して、売るなり、貸す等する	R2.12.21
三ヶ日	20	耕作放棄地を所有されている方は、人に貸すよりも、売却を進めてきており、若い担い手にとっては、負担が大きい	R2.12.21
三ヶ日	20	耕作放棄地は、条件が悪すぎる	R2.12.21
三ヶ日	20	自分の地区でも、ここ3年間で、4人みかん農家をやめた	R2.12.21
三ヶ日	20	本坂地区の農地は、出作の人の方が多い	R2.12.21
三ヶ日	20	水田を埋めて畑に、転換していく	R2.12.21
三ヶ日	20	新選果場に、倉庫がなくても良いように期待	R2.12.21
三ヶ日	20	耕作不適地という認定を設ける	R2.12.21

三ヶ日	20	担い手が思ったより少ない	R2.12.21
三ヶ日	20	売買の土地価格はいくらが適正か	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手との地域における自覚は	R2.12.21
三ヶ日	20	集積ができれば、多くの問題は解決するのでは(以前からの問題である)	R2.12.21
三ヶ日	20	本坂、入り作の方が多い	R2.12.21
三ヶ日	20	拡大希望135名思ったより多い	R2.12.21
三ヶ日	20	労働力の不足、194名が気になった。不足を感じている人が多い	R2.12.21
三ヶ日	20	後継者について、経営継承	R2.12.21
三ヶ日	20	集積を考えている人が多い	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手不足	R2.12.21
三ヶ日	20	自分に地区で20件の農家が無くなる、土地をどう守っていくか	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手の年齢、集積は進んでいるか高齢	R2.12.21
三ヶ日	20	労働力不足	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手数が不十分→負担が大きくなっている。農地の売却、労働力⇒条件に制限	R2.12.21
三ヶ日	20	プラン作成の時期は、今しかない	R2.12.21
三ヶ日	20	農地の判定⇒不適地判定	R2.12.21
三ヶ日	20	新しい販売方法	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手への集積は進んでいるが、担い手の年齢が高く今後が不安である	R2.12.21
三ヶ日	20	本坂の地区は本坂以外の人が耕作を行っているのが現状→本坂以外の人に連絡しづらい	R2.12.21
三ヶ日	20	本坂の人が本坂で作った方が効率が良い→機械化による効率化ができる	R2.12.21
三ヶ日	20	思った以上に担い手に集約されている	R2.12.21
三ヶ日	20	しかし、レポートにある希望のような農地を広げていくうえで、機械化が必要	R2.12.21
三ヶ日	20	担い手不十分→残りの担い手の負担増→集約による負担減を目指す	R2.12.21
三ヶ日	20	厳しい田を畑にして、平地でも良いみかんを作れるように	R2.12.21
三ヶ日	20	外国人の受け入れの行政の支援が必要(宿泊等)	R2.12.21
三ヶ日	20	三ヶ日の人・農地プランは、他の北区よりも人がある	R2.12.21
三ヶ日	20	人の繋がりが大切(集約だけでなく)→活発な話し合い	R2.12.21
三ヶ日	20	推進委員として耕作放棄地を見ているが、耕作不適地がある→今後、放棄地と不適地を分けるべき	R2.12.21
三ヶ日	20	よく作っているなど思えるような土地も多い→分けていくべき	R2.12.21
三ヶ日	20	交換だけではなく売買も考えていくべき→土地の価格とかを考えるべき	R2.12.21
三ヶ日	20	割り切って使える農地、そうでない土地を分けて再生をやるべき	R2.12.21
三ヶ日	20	周りの人が高齢によってやめている人がいる→農地を買って欲しい	R2.12.21
三ヶ日	20	倉庫がなくてもすぐに出荷できる新しいやり方も考えるべき	R2.12.21
三ヶ日	20	農地が増えていくなると、青島みかんは1ヵ月で獲らなければならない	R2.12.21
三ヶ日	20	切り子が多く必要→外国の人にその時期だけ働いてもらい、それ以外で働いてもらシステムに期待	R2.12.21
三ヶ日	20	三ヶ日の場合、新規の人にもみかんをやって欲しい→土地と施設をセットで貸す仕組みが必要	R2.12.21
三ヶ日	20	農業をしていて独身の人が多い。農家の子の子就農するパターンはあるが、機械が駄目になっていたりと、そんなにアドバンテージがあるわけではないという人もいる	R2.12.21